
I S - ACE -

つきのわぐま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS - ACE -

【Zコード】

Z4654Z

【作者名】

つきのわぐま

【あらすじ】

ある国のIS研究所の実験機の事故から数時間後、コアネットワークからの通信を受けた『篠ノ之 束』と二人の協力者。彼女達が着いた場所で保護した少女と青年。

彼女達を待ち受けける運命とは……。

Stage 1 (前書き)

最初の話を訂正しました。

理由は、初めに書いた話が頭の中で繋がらなかつた為。

Stage 1

「はあ！..」

「はあ！..」

「無駄だ！..」

最後の闘い……。

全ての 神姫 とその マスター の未来を守る為の闘い。

「 さん、あなたは間違つてます！..」

「黙れ！..」

幾度かの攻防。

互いの神姫の武装は半壊の状態。

「私達神姫は復讐の道具じゃない！..」

「造られた存在が何を言つ……。」

「一体の神姫はお互に距離を取り、射撃武器を構える。

「神姫にだつて心があつます……。」

「所詮はプログラムだ……。」

「違う！マスターへのこの想いはプログラムじゃない……！」

「黙れ！黙れ……。」

ほぼ同時にトリガーを引く。

「貴方だって感じているはずです……。」

「その子はこんな事を望んでいなつて事を……」

「ツー？」

互いの射撃は両者の中間で相殺され、その爆風によつ、一体の神姫の距離が更に開く。

「貴方のマスターに教えてあげて！貴方の本当の気持ちを……。」

「ワタシノキモチ？リカイフノウ。リカイフノウ。」

「残念だつたな！」

薄れよく爆煙の中、両者は向かい合つ様に佇む。

「感情など所詮は、ライドシステムを起動するだけのキーでしかないのだよ！起動してしまえば、只の飾りなのだよ！！」

「それは違う！…今、彼女は悲しんでいる…！」

「彼女の感情が飾りだなんて笑わせないで！今、彼女は悲しい顔をしてる…！」

「五月蠅い黙れ！！これで最後にしてやる…！」

「……リョウカイシマシタ。」

「…ツ！？ルナ！…つちもいくよ…！」

「わかった！…！」

そして、互いの最強の一撃が衝突し、周囲が光の奔流に呑まれる中、私達の意識は薄れていった。

設定のー（前書き）

皆さん、おはようございます。じぶんわですか？

今日はUnityで出した武装神姫のキャラクターと神姫を紹介します。

設定その1

名前：星月 ほしつき

月 ゆえ

性別：女

設定：武装神姫の未来を守る闘いの最中、相手のレールアクションと自分のレールアクションの衝突の光に包まれ、気が付くとパート一ナのエストリル型神姫『ルナ』と共に束の隠れ研究所に居た。姿は、黒髪のショートヘア。瞳の色は黒。身長は165cm。

名前：ルナ

神姫タイプ：エストリル型

設定：桃色のショートヘアで瞳の色は青。マスターは『星月 月』。武装神姫の未来を守る為、マスターの月と共に闘い、お互いのレールアクションの衝突の光に包まれる。

Stage2 (前書き)

設定その1に続いて、Stage2を連続投稿！！

「一体何なのよコレー!?」

突然の事態に私【星月 月】^{ほしつき ゆえ}は混乱していた。

田の前には、砲身の付いた四本足のロボット。

後ろには、田の前のロボットとは少し型が違う四本足のロボット。

「マスターー!後方から!!サイル来るよーー!」

「ああもうー!」

パートナー【ルナ】の声に従い、スラスターを起動させて、ミサイルを何とか回避する。

そして、その勢いのまま田の前の砲身の付いたロボットに近く。

「これならー!」

右手に持った《EVFベイオネット》をロボットの胴体に向けて構える。

僅かな衝撃と共に杭が射出され、ロボットの胴体を貫く。

「まあ、一つ！」

〔またミサイルが来るよー〕

貫いた杭を引き抜くと共に、ロボットをミサイルの進路上に蹴り飛ばす。

ミサイルの進路上に蹴り飛ばした事により、ミサイルの大半はロボットに当たり、残りもその爆発に巻き込まれ、辺りに爆煙が立ち込める。

「ルナ！標準のサポートお願いーー！」

ルナに指示をだし、リヤパーツの左側にマウントした《LC3レーザーライフル》を構え、チャージを開始する。

「ロックオン完了ーー」

「これで。。。」

ルナのサポートにより、爆煙の中のもう一一体に標準を合わせ、チャージが完了」と同時に引き金を引く。

「ラストーー！」

私の攻撃は爆煙を吹き飛ばしながら、残りの一体のロボットに当たり、機能を停止させた。

「……こんなに威力あつたつけ？」

「まあ、チャージしたぶん威力は上がるけど……、コレはちょっと……」

私達の田の前にいるロボットの状態はとまつと……、攻撃が当たった所が丸々消し飛んでいて、右半分がない状態なのだ。
おかしい、今までチャージしても此処までの威力は無いはず……、もしもしあつたら神姫バトルは等に無くなっている。つてか、私達は何体もの神姫達を葬つた事になるからヤダ。絶対ヤダ。

「とりあえず、無かつた事にしよう。うん、そうしよう。」

「現実逃避は駄目だよ。向こうからまた同じのが来るナビがいる？」

ルナの言つ通り、薄暗い通路の向こうから幾つのも赤い光が此方に向かつてくる。

「とりあえず、チャージ完了。」

「もうヤダーお家に帰りたいの……」

そう叫びながら、チャージの終わった『LCK3レーザーライフル』を口ボットの大群へと放つた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4654z/>

IS-ACE-

2011年12月21日21時46分発行